

第12回バリアフリー推進勉強会 in 関西[詳細情報]

◎事例発表

今回のバリアフリー推進勉強会 in 関西では、地域の住民の力に依拠してバリアフリー整備を実施していく方針を示した兵庫県明石市、国際文化観光都市奈良として観光関連事業のバリアフリー整備方針を掲げる奈良県奈良市、コンパクトシティ化を含めた都市計画と関連したマスタープラン策定を進める大阪府池田市、「町」規模で町民の提案をもとにハード面において実行可能な場所からバリアフリー化推進を図る奈良県上牧町の4つの自治体の担当者等より、基本構想やマスタープランの策定における事例紹介をしていただきます。(詳しくは下記のとおり)

◀自治体の特徴▶

①兵庫県明石市：マスタープラン作成済み

2020年「明石市ユニバーサルデザインのまちづくり実行計画」を策定。移動等円滑化促進地区の設定において、住民による地区改善の取り組みが起きている地区「ユニバーサルデザインのまちづくり推進モデル地域」を選定方針に定め、実際に1地区を選定。地域の住民の力に依拠してバリアフリー整備を実施していく方針を示し、市域全体の取り組みにつなげていく方針を掲げている。

②奈良県奈良市：マスタープラン作成済み

2020年「奈良市ユニバーサルデザインマスタープラン（「だれひとり取り残さない！」プロジェクト）」を策定。国際文化観光都市奈良として、観光関連事業のハード・ソフト面を含めたバリアフリーに資する整備方針を掲げる。市の主たる観光施設である寺院や神社のバリアフリー推進が挙げられ、各寺院・神社の境内整備計画との整合を図りながら整備方針を掲げるほか、寺社仏閣のバリアフリー事例集を作成。

また、新駅設置・新規整備が予定されている地区を移動等円滑化促進地区と位置づけ、バリアフリー化のモデル地区を目指して整備していく方針を示している。

③大阪府池田市：マスタープラン作成中

2018年策定の池田市立地適正化計画における都市機能誘導区域とともに移動等円滑化促進地区を設定。住民提案をもとに、「よく行く施設」や「行きたいが諦めている施設等」の声を踏まえて、移動等円滑化促進地区の範囲を調整し策定。いわゆる、コンパクトシティ化を含めた都市計画と関連させた形で方針を示している。

④奈良県上牧町：基本構想作成済み

「町」という単位で、町民からの提案をもとにハード面においては、実行可能な箇所からのバリアフリー化を推進。地形的、財政的な問題からバリアフリー化に時間を要する箇所については、ソフト面の充実によって「心のバリアフリー」を浸透させるべく取り組んでいる。

また、重点整備地区の設定においては、特に利用頻度の高い箇所から順次整備を進め、町全体のバリアフリー化を目指して取り組んでいる。

◎ディスカッション

ディスカッションでは、4つの事例紹介を踏まえ、冒頭に指定討論者として国や自治体のバリアフリー施策に関する委員を歴任されております尾上氏より、障害当事者の視点からマスタープランおよび基本構想の期待と課題についてお話いただきます。

また、交通バリアフリーの専門家である大阪大学名誉教授の新田先生のコーディネートの下、策定にあたって、障害当事者を含む住民等の参加・連携の方法や工夫、地域の実情をいかに反映したか等について議論を深めていきます。

《ディスカッション参加者》

○事例発表者

兵庫県明石市、奈良県奈良市、大阪府池田市、奈良県上牧町（発表順）

○コーディネーター：新田保次氏（大阪大学名誉教授）

1949年岡山県生まれ。

交通計画、都市・地域計画を専門とし、「まちづくりのための交通戦略－パッケージアプローチの進め」、「理論から実践へ 日本の交通バリアフリー」や「参加型福祉の交通まちづくり」などの著書のほか、交通バリアフリーに関する講演などにも多数登壇されている。

○指定討論者：尾上浩二氏

（特定非営利活動法人 DPI（障害者インターナショナル）日本会議副議長）

1960年大阪市生まれ。

全国初となった大阪府福祉のまちづくり条例制定運動に携わったほか、DPI（障害者インターナショナル）日本会議事務局長、内閣府・障害者制度改革担当室政策企画調査官等にも歴任。障害者に関する施策の研究、普及などにおける講演・著書多数。